

## 研修実施計画書

## 1. 研修題名

溶接ヒュームに関する法改正及び各大学等の取り組み

## 2. 研修のねらい・目標

なぜこの研修を行うのか。大学目標や総合技術部課題との関連。

大学の研究・教育が法令の定めに沿って安全かつ健康的な環境で行われるよう、研究室などの場で、化学物質を始めとする実験材料・装置・器具の管理・運用・方針検討などの技術的支援を行うため、令和2年4月 特定化学物質障害予防規則・作業環境測定基準等の改正に伴う「塩基性酸化マンガンおよび溶接ヒュームに係る規制の追加」について専門研修によって情報を共有する。

## 3. 期待される成果

研修によって何がどう変わるのか。

溶接ヒュームに関する法改正の詳細内容やその法改正に伴う各大学等の取り組みについて知ることにより、溶接ヒュームに関する法改正に対し、東北大学として、どういったことを実施していかなければならないか具体的な対応を考えるきっかけとする。

## 4. 研修内容

要綱に記載のないことがあれば記入する

- ・ 基調講演「特定化学物質障害予防規則（特化則）等改正について」  
中央労働災害防止協会九州安全衛生サービスセンター 吉田 哲
- ・ 調査報告「溶接ヒュームに関する各大学等の対応状況」  
熊本大学技術部 片山 謙吾
- ・ 事例報告①「名古屋大学における溶接ヒュームへの取り組み」  
名古屋大学全学技術センター 後藤 光裕
- ・ 事例報告②「溶接ヒュームの測定と曝露濃度の低減措置について」  
熊本大学技術部 坂本 敬行
- ・ 事例報告③「九州工業大学におけるアーク溶接等作業への対応」  
九州工業大学健康支援・安全衛生推進機構 青木 隆昌
- ・ 質疑・討論

## 5. 備考

その他、研修計画に関する意見等。

なし。

## 6. 添付書類：■ 研修要綱、□ 費用見積書（経費の必要な研修に限る）

\* 記入欄が不足する場合は適宜広げてください。

## 研修実施報告書

## 1. 研修題名

溶接ヒュームに関する法改正及び各大学等の取り組み

## 2. 研修のねらい・目標

研修計画書に記載した内容

大学の研究・教育が法令の定めに沿って安全かつ健康的な環境で行われるよう、研究室などの場で、化学物質を始めとする実験材料・装置・器具の管理・運用・方針検討などの技術的支援を行うため、令和2年4月 特定化学物質障害予防規則・作業環境測定基準等の改正に伴う「塩基性酸化マンガンおよび溶接ヒュームに係る規制の追加」について専門研修によって情報を共有する。

## 3. 研修内容

参加者数、研修実施に当たって工夫した点など

・安全・保守管理群 化学物質管理チーム 6名 全員参加（参加率：100%達成）  
・溶接ヒュームに関する法改正が行われ、それに関する専門研修を考えていたところ、大学等環境安全協議会実務者連絡会研修会として「溶接ヒュームに関する法改正及び各大学等の取り組み」の企画があったため、それに参加することにより、専門研修の代わりとした。通常の研修と比べ、準備に割く時間を大幅に削減できただけでなく、チームにふさわしい研修であった。

## 4. 研修成果

期待される成果が達成できたか。研修の実施によって何が変わり、今後、大学に対してどのような貢献ができるか。

溶接ヒュームに関する法改正が行われたものの、現時点において、東北大学として、どういったことをやっていくかという方針が一切示されていないことがわかった。さらに発表のあった各大学では、個人サンプラーを使用した溶接ヒューム暴露状況をすでに把握しており、適切な呼吸用保護具の選定まで終了していることがわかった。

## 5. 課題

研修実施後に新たに見出した課題は何か。

早急に、対象となる作業場において、個人サンプラーを使用した溶接ヒューム暴露状況確認を行い、適切な呼吸用保護具の選定をしなければならない。また、呼吸用保護具をきちんと着用しないと保護具の意味がないため、着用状態を確認するフィットテスト（発表のあった各大学においても課題になっている）の実施が不可欠である。

## 6. 備考

その他、研修全般に関する意見等。

なし。

## 7. 添付書類：□ 参加者名簿、□ アンケート結果

\*記入欄が不足する場合は適宜広げてください。